“ONE TEAM”な患者会【前橋日赤糖友会】の改革

～地域医療支援病院として多職種協働と病診連携を活かし存続危機から脱出～

「地域医療・医療情報」
演題番号：ⅢP-148-1

第63回 日本糖尿病学会年次学術集会
日時：2020年10月5日～16日（Web開催，滋賀）

末丸 大悟[1,14],齋藤 久美[2],林 昌子[2],飯田 早苗[3],鈴木 典浩[3],髙木 あけみ[4],木村 真依子[5],
関口 美香[6],阿部 奈規[6],町田 忠利[7],大澤 淳子[7],阿部 克幸[8],山田 玲菜[8],角田 圭[9],
高橋 美和子[10],加藤 和子[11],高畑 絢子[12],須賀 一夫[13],山田 早耶香[1],石塚 高広[1],上原 豊[1],
岩本 美佐子[14],高橋 留美子[14],黒澤 久美子[14],末丸 美央[14]

[1]前橋赤十字病院糖尿病・内分泌内科，[2]前橋赤十字病院看護部，[3]前橋赤十字病院事務部，
[4]原町赤十字病院看護部，[5]前橋赤十字病院臨床心理外来，[6]前橋赤十字病院臨床検査部，
[7]前橋赤十字病院薬剤部，[8]前橋赤十字病院栄養課，[9]前橋赤十字病院リハビリテーション科，
[10]前橋赤十字病院眼科，[11]前橋赤十字病院歯科衛生課，[12]前橋赤十字病院医療社会福祉課，
[13]前橋赤十字病院地域医療連携課，[14]すえまる内科

【緒言】

「糖尿病学の父」と称されるエリオット・P・ジョスリンの言葉に「糖尿病患者教育は治療そのもの」とある。

糖尿病診療において患者教育は重要であり、その一つに患者会も含まれると考える。決して患者主体・主導の会とは限らず、患者、患者家族、糖尿病に興味のある方、医療スタッフからなる“友の会”という意味を含む会であり日本糖尿病協会が主軸となっている。

当院では、糖尿病に関する正しい知識を増やす場として、糖尿病と上手く付き合っていけるよう療養生活での疑問点を相談、解決できる場として【前橋日赤糖友会】を昭和63年に設立され、30年以上の年月を経て、現在に至っている。

【前橋日赤糖友会】

令和元年を迎えて早々に直面した問題点には、以下が挙げられ、患者会が存続の危機に陥った。

・*高齢化に伴い会員数が減少傾向にあること*

・*患者会に協力する看護師の不在*

これらの背景には、下記の点が存在した。

・普段の診療等で、医師などの医療者から積極的な声かけが不足しており、糖尿病を学ぶ機会、情報共有する場ともなる“友の会”の存在を知らない患者が多かった。

・本会活動がボランティアであるがゆえに、多忙な日常業務の中で協力的ではあるものの関わり方に看護スタッフ間で温度差を認め、本会の解散を提言するスタッフもいた。

【前橋日赤糖友会】

そこで、これまでの本会運営は看護師主導であったが、本会に協力的に関わる看護師が不在となったため、2019年7月以降は医師主導とし、事務部の協力を得て運営の立て直しを図り、多職種で引き続き密な連携をとる方針へ切り替えた。

また、病院内で患者会活動が周知されていなかったことも一因と考え、病院が患者サービスの一環として患者会をバックアップして推進してもらえるよう病院幹部メンバーに働きかけ、病院ホームページへの掲載、院内患者図書室へのパンフレット設置などを図った。

この他、当院通院中の患者だけでなく、以前当院にて糖尿病教育入院歴があり近医通院中の患者、6カ月に1回の頻度でかかりつけ医と糖尿病地域連携パスを導入している患者、地域の方々も気軽に参加できる体制を整えた。

https://www.maebashi.jrc.or.jp/info/2019…

前橋赤十字病院　お知らせ

前橋日赤糖友会について

前橋赤十字病院 (2019年7月 3日 21:21)

前橋日赤糖友会で 共に学びませんか？

「前橋日赤糖友会」とは？

昭和63年に設立された糖尿病患者さんと、患者さん家族、糖尿病に興味のある方、医療スタッフからなる会です。

糖尿病に関する正しい知識を増やす場として、また、糖尿病と上手く付き合っていけるよう、療養生活での疑問点やお悩みを、本会の仲間と共に考えていきませんか？

下記内容で開催しておりますので、ご興味がある方は裏面をご覧ください。

日時：月1回（木曜）午後3時30分～4時30分

場所：多目的室 （2階の院内ファミリーマートさんの南隣）

入会方法：詳しくは裏面をご覧ください。
（本会に参加してみてからでもかまいません）

ご案内パンフレットはこちら：■患者会パンフレット.pdf

【◆2019年度◆前橋日赤糖友会の年間スケジュールはこちら】

2019年度 前橋日赤糖友会 年間スケジュール

開催日	内容	担当・講師
2019年4月4日	第320回　糖友会総会	新井修
5月16日	第321回　フットケア	藤縄久美
6月6日	第322回　糖尿病と歯周病	歯科衛生士
7月4日	第323回　社会保険制度について	社会福祉士
8月1日	お休み	
9月5日	第324回　糖尿病と網膜症	視能訓練士
10月3日	第325回　シックデイ時の対応について	末丸大悟
11月7日	★11月4日、群馬県糖尿病セミナー「群馬県歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリー」みんなで参加しましょう♪　糖友会はお休みです。しゅんしゅんクリニックPさんが、特別ゲストでいらっしゃいます！！	
12月5日	第326回　家族の中でもできる運動	理学療法士
2020年1月9日	お休み	
2月6日	第327回　食事について	管理栄養士
3月5日	第328回　①災害に備えて ②体験記 ②この頃思うこの頃	①・② 高木あけみ ③ 高澤久美子

【時間】15：30～　1時間程度
【場所】病院2階　多目的室（ファミリーマートさんの南隣）

PDFはこちら→◆2019年度◆前橋日赤糖友会の年間スケジュールはこちら＜PDF＞.pdf

【●シックデイ時の対応●前橋日赤糖友会のレクチャーを聞いてみよう（2019年10月3日分）】

PDFはこちら→●シックデイ時の対応●前橋日赤糖友会のレクチャーを聞いてみよう（2019年10月3日分）＜PDF＞.pdf

病院ホームページ

院内患者図書室

前橋日赤糖友会で 共に学びませんか？

「前橋日赤糖友会」とは？

昭和63年に設立された糖尿病患者さんと、患者さん家族、糖尿病に興味のある方、医療スタッフからなる会です。

糖尿病に関する正しい知識を増やす場として、また、糖尿病と上手く付き合っていけるよう、療養生活での疑問点やお悩みを、本会の仲間と共に考えていきませんか？

下記内容で開催しておりますので、ご興味がある方は裏面をご覧ください。

日時：月1回（木曜） 午後3時30分～4時30分

場所：多目的室 （2階の院内ファミリーマートさんの南隣）

入会方法：詳しくは裏面をご覧ください。
（本会に参加してみてからでもかまいません）

糖尿病教育と患者会　末丸 大悟

「糖尿病学の父」と称されるエリオット・P・ジョスリンの言葉に「糖尿病患者教育は治療そのもの」とある。職場の病院では糖尿病の教育入院を実施し、医師のみでなく、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師、歯科衛生士、臨床心理士など多職種で関わる。

院内には30年以上前に発足した糖尿病の患者会が今なお存続し、定期的な勉強会で交流を深めている。「息子にも伝授したい予防策」「網膜症怖いが遠のく眼科受診」といった糖尿病川柳を詠んだり、体験談を語り合ったりすることもある。こうして、患者とその家族、医療スタッフとの間を近づける唯一の場が患者会に広がっている。「この会は気分転換になります」。参加者の喜びの声を耳にするとうれしい。

先日、長く患者会を支えてくれた医療スタッフの退職に際し、患者から感謝の気持ちを込めて押し花絵が贈られた。トウモロコシやカキ、ナスの葉、アジサイ、テッセンなどの素材を使って、スタジオジブリの名作「となりのトトロ」がモチーフに描かれていた。患者の思わぬ特技も垣間見られる会でもある。今後も、このような温かい雰囲気の患者会を支えていきたい。

上毛新聞
2019年5月22日付

患者会会長：　新井 修
顧問医師：　上原 豊
療養指導医師：　末丸 大悟

※各種レクチャーは、多職種からなる糖尿病ケアチーム（DCT）で関わらせていただいております。

DCT 糖尿病チーム

＜年間スケジュール（例）＞

4月	総会／糖尿病とは	10月	目の合併症について
5月	学会のためお休み	11月	「ウォークラリー」に参加
6月	食事について	12月	歯と糖尿病について
7月	運動について	1月	糖尿病の検査について
8月	薬について	2月	社会保障について
9月	低血糖について	3月	体験談などの語り合い

※各回で、今月の「さかえ」のワンポイントレクチャーあり。
なお、テーマは上記の限りではございません。ご希望に応じて検討しています。

毎年秋には糖尿病関連イベント**「群馬県歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリー」**へ参加できます（希望制）。
クイズやゲームをしながら、他の病院・クリニックの患者会の皆さんと交流を深めます。

2013年10月27日 もみじ平総合公園にて

←月刊糖尿病ライフ「さかえ」の【患者さんと医療スタッフのデイリー・ライフ】欄に掲載されました。
（2017年10月・11月・12月号）

前橋日赤糖友会 入会のご案内

◆ 会員特典：
月刊誌 **糖尿病ライフ「さかえ」** を配布します（毎月あり）。
「さかえ」は、とてもわかりやすい糖尿病についての専門誌です。
糖尿病に関する最新トピック、療養生活のコツ、患者さんの体験談などの情報が掲載されています。

◆ 会費：
年会費 4000円 （入会金は不要です）
※1冊540円×12カ月分（6480円）の「さかえ」もここに含まれています。

◆ 入会申し込み方法：
本会の開催時に下記申し込み票に記載の上、申し込み票と年会費をご持参ください。

前橋赤十字病院　前橋日赤糖友会

【「前橋日赤糖友会」 申し込み票】　年　月　日

氏名（ふりがな）：
住所：〒　電話番号：

※年会費4000円を添えて、本会開催時にお申込みください。

診察室、患者図書室などに配置したパンフレット

Vol.1(2019).Ver.1.0
（2019年9月作成）

2019年度 前橋日赤糖友会 年間スケジュール

開催日	内容	担当・職種
2019年 4月4日	第320回　糖友会総会	新井修（会長）
5月16日	第321回　フットケア	齋藤久美（糖尿病看護認定看護師/日本糖尿病療養指導士）
6月6日	第322回　糖尿病と歯周病	歯科衛生士
7月4日	第323回　社会保険制度について	社会福祉士
8月1日	お休み	
9月5日	第324回　糖尿病と網膜症	視能訓練士
10月3日	第325回　シックデイ時の対応について	末丸大悟（糖尿病専門医/療養指導医）
11月7日	★11月4日、群馬県糖尿病セミナー＆「群馬県歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリー」みんなで参加しましょう♪　糖友会はお休みです。しゅんしゅんクリニックPさんが、特別ゲストでいらっしゃいます！！	
12月5日	第326回　家族の中でもできる運動	理学療法士
2020年 1月9日	お休み	
2月6日	第327回　食事について	管理栄養士
3月5日	第328回　①災害に備えて ②体験談などの語り合い	①・② 髙木あけみ〈原町日赤〉（糖尿病看護認定看護師/日本糖尿病療養指導士） ② 黒澤久美子〈すえまる内科〉（看護師/群馬県糖尿病療養指導士）

【時間】15：30～　1時間程度
【場所】病院2階　多目的室（ファミリーマートさんの南隣）

前橋日赤糖友会　～SINCE 1988～

Vol.2(2020).Ver.1.0
（2020年3月作成）

2020年度

新型コロナウイルスの感染拡大を鑑みて、当面の間、本会は中止とさせていただきます。感染の収束に応じて、再開を検討し、ここに掲示させていただきます。何卒、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
なお、今年度の「さかえ」購読、入会継続希望の方は、当院糖尿病・内分泌内科、もしくは、すえまる内科の外来にて随時会費を徴収しておりますので、お声がけください。「さかえ」に各回のレクチャー資料を添えて、外来でお渡しする方針で検討しております。
2020年5月8日　前橋日赤糖友会　事務局

開催日	内容	担当・職種
2020年 4月16日	第328回　糖友会総会／糖尿病とは／かるた（※新型コロナウイルス(COVID19)の流行を鑑みて、4月2日の予定を16日へ延期変更しました）	新井修（会長）・末丸大悟（糖尿病専門医・指導医/療養指導医）
5月7日	第329回　ストレスと糖尿病について ～アンガーマネジメントとは？～	講義担当：末丸大悟 資料作成：木村真依子（臨床心理士/公認心理師）
6月4日	第330回　食事について	阿部克幸・山田玲菜（管理栄養士/日本糖尿病療養指導士）
7月2日	第331回　家庭の中でもできる運動	理学療法士
8月6日	第332回　薬について	町田忠利・大澤淳子（薬剤師/日本糖尿病療養指導士）
9月3日	第333回　フットケアについて	講義担当：末丸大悟 資料作成：齋藤久美（糖尿病看護認定看護師/日本糖尿病療養指導士）
10月1日	第334回　目の合併症について	視能訓練士
11月5日	★群馬県糖尿病セミナー＆「群馬県歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリー」みんなで参加しましょう♪　糖友会はお休みです。	
12月3日	第335回　歯と糖尿病について	歯科衛生士
2021年 1月7日	第336回　糖尿病の検査について	関口美香・阿部奈規（臨床検査技師/日本糖尿病療養指導士）
2月4日	第337回　社会保険制度について	社会福祉士
3月4日	第338回　①災害に備えて ②体験談などの語り合い	①・② 髙木あけみ〈原町日赤〉（糖尿病看護認定看護師/日本糖尿病療養指導士） ② 末丸大悟

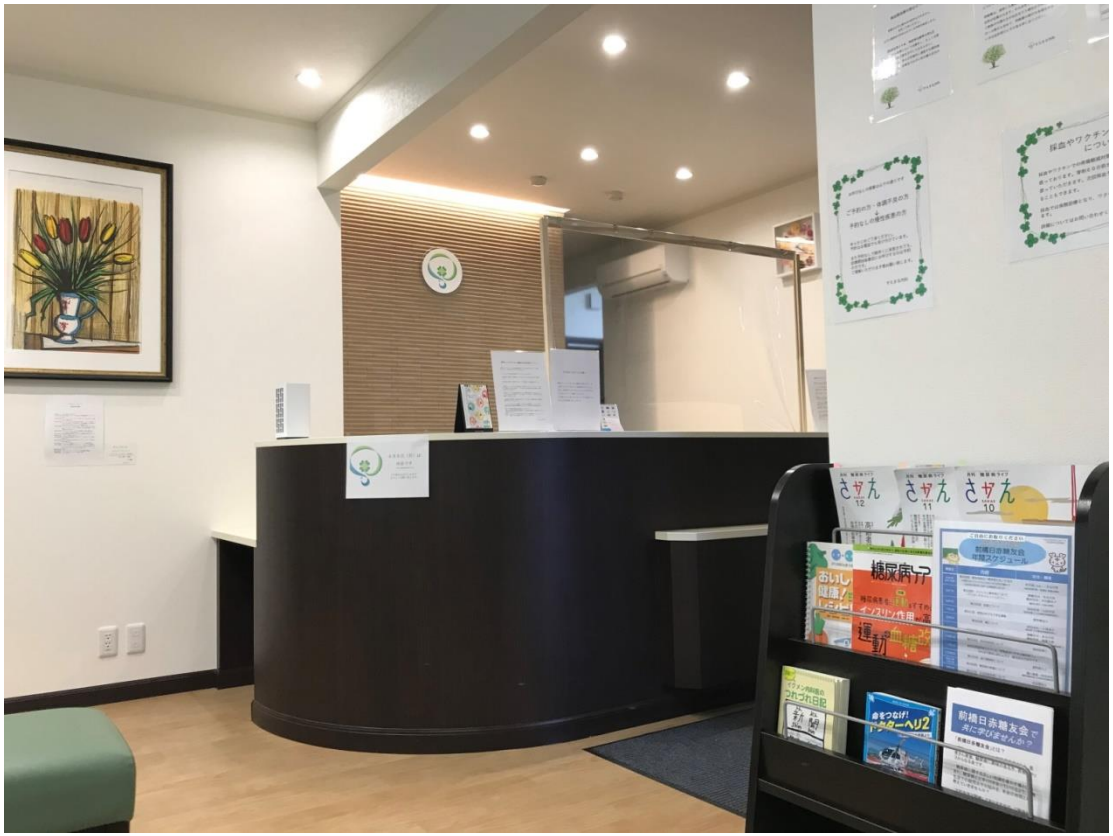
【時間】15：30～　1時間程度
【場所】病院2階　多目的室（ファミリーマートさんの南隣）

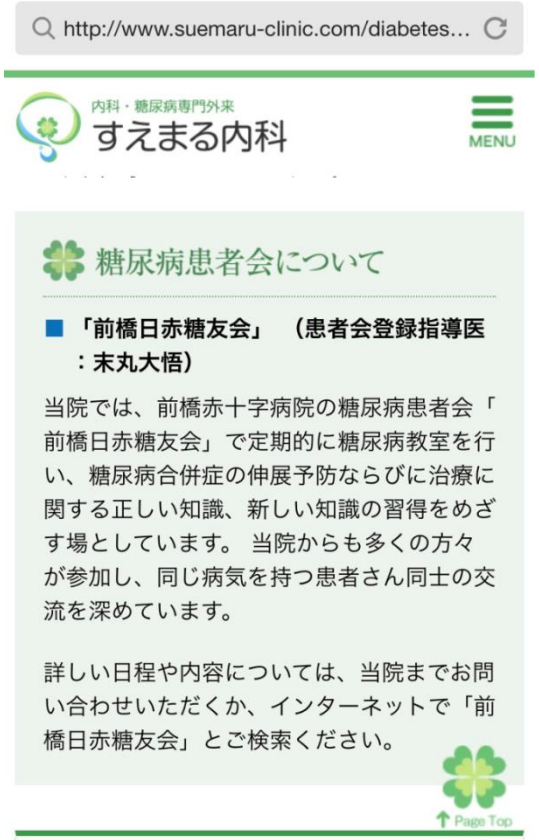
前橋日赤糖友会　～SINCE 1988～

病院ホームページに、開催日時、レクチャー内容・担当部署を掲示し、興味のある内容に参加しやすいよう工夫した。

【前橋日赤糖友会】

パイロットモデルとして当院から半径4km圏内に位置するすえまる内科に協力依頼し、待合室へのパンフレット設置や、診療の際に患者会の紹介を行っていった。結果、医療スタッフからなる賛助会員を除く患者会員が7人であったのが、22人（2019年11月時点）→40人（2020年7月時点）へと増加した。





http://www.suemaru-clinic.com/diabetes…

内科・糖尿病専門外来
すえまる内科

MENU

糖尿病患者会について

■ 「前橋日赤糖友会」 （患者会登録指導医：末丸大悟）

当院では、前橋赤十字病院の糖尿病患者会「前橋日赤糖友会」で定期的に糖尿病教室を行い、糖尿病合併症の伸展予防ならびに治療に関する正しい知識、新しい知識の習得をめざす場としています。 当院からも多くの方々が参加し、同じ病気を持つ患者さん同士の交流を深めています。

詳しい日程や内容については、当院までお問い合わせいただくか、インターネットで「前橋日赤糖友会」とご検索ください。

Page Top

【前橋日赤糖友会】

課外活動として年1回開催の糖尿病ウォークラリー（群馬県糖尿病協会主催）への参加人数は、6人から24人へと増加した。

糖尿病デーにウオークラリー

末丸　大悟（前橋市・35）

世界糖尿病デー（14日）を前に、患者さんとその家族、医療スタッフが一緒のチームになって歩くウオークラリーが前橋市の大室公園で開かれた。毎年この時期に実施されるが、昨年と一昨年は雨天中止となり、今年は三度目の正直で、無事に開催にこぎつけた。

パズルのような地図を頼りに迷いながら歩く。所々で糖尿病に関するクイズやゲームが待ち構える。みんなで和気あいあい歩きながら糖尿病について学ぶことができた。以前、群馬県にまつわるクイズもあり、群馬に来て間もない私には難しく、患者さんから教えていただいたことも。

コースの途中、多くの人でにぎわう所があった。前橋市指定重要文化財の旧関根家住宅だ。赤城南麓に見られる養蚕農家で屋根に特徴がある。プチ観光気分も味わい、偶然な出会いもあった。

イベントの最後には、参加した150人ほどがブルーの雨ガッパを着て大きな輪になり、世界糖尿病デーのシンボルマーク「ブルーサークル」を作った。つながった人の輪は、市境に立つ前橋市の交通標識と同じに見えるだろう。松平氏の馬印「輪貫」に由来する市章は、シンプルな丸だから。

上毛新聞
2018年11月14日付
新聞投稿82号

※『糖尿病と闘う「ワンチーム」』にまつわるエピソード

最後の1文は、『みんなで糖尿病と【ONE TEAM】になり歩めた（ウォークできた）1日となった。』と投稿したが、新聞社の修正・加筆が加わり、『みんなで糖尿病と闘う「ワンチーム」になって歩むよう背中を押された格好だ。』となった。ラグビーW杯も意識されてか、題は『糖尿病と闘う「ワンチーム」』になったものと思われた。

ただ、後日、ある患者さんより

「闘うのでしょうか？」

と疑問を投げかけられたのが印象的だった。このような事情があったことを説明し、

「闘わなくていいですよ」

と改めてお話した。

糖尿病と闘う「ワンチーム」

末丸　大悟（前橋市・36）

「笑い」は健康に良く、食後血糖値の上昇を抑えたという医学論文を読んで、関心を持ったことがある。富岡で開かれた糖尿病セミナー&ウオークラリー（4日）に、6年ぶりに息子たちと参加した。セミナーでは前橋市出身の医師で吉本興業所属のお笑い芸人「しゅんしゅんクリニックP」こと宮本駿さんが講演した。「ヘイヘイドクター」「そうき歌」などの代表ネタをはじめ、「ヘイヘイ糖尿病」というセミナーならではの新ネタもテンポ良い踊りで披露され、会場は大きな笑いに包まれた。

セミナー終了後、県内各地から糖尿病患者とその家族、医療スタッフらが老若男女問わず200人以上も集まり、もみじ平総合公園でウオークラリーを楽しんだ。快晴の下、糖尿病に関する知識を深めつつ、たわいない話に花を咲かせた。

先日閉幕したラグビーW杯。優勝国・南アフリカに敗れたが、ベスト8入りを果たし世界中を盛り上げた日本代表チームのモットー「ワンチーム」が頭に浮かんだ。セミナー当日、私はたまたまW杯ロゴマーク入りラガーシャツを着ていた。14日の「世界糖尿病デー」を前に、みんなで糖尿病と闘う「ワンチーム」になって歩むよう背中を押された格好だ。

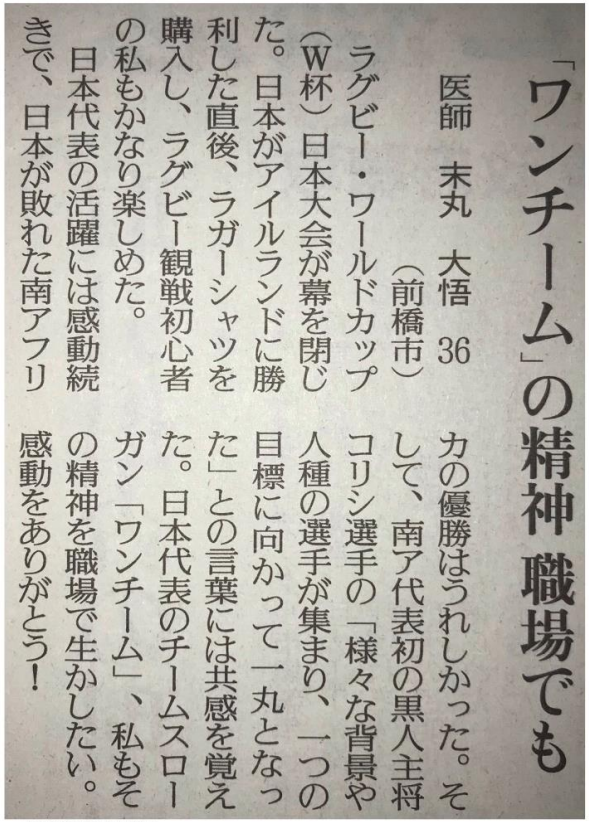
上毛新聞
2019年11月13日付
新聞投稿105号

2018年＠前橋市・大室公園

2019年＠富岡市・もみじ平総合公園

【前橋日赤糖友会】

群馬県では13病院が地域医療支援病院として承認され、内4病院が前橋市にあり、当院もその内に含まれる。かかりつけ医へ通院中の患者への支援を提供することは地域医療支援病院の役割の一つと考える。



「ワンチーム」の精神 職場でも

医師　末丸　大悟　36（前橋市）

ラグビー・ワールドカップ（W杯）日本大会が幕を閉じた。日本がアイルランドに勝利した直後、ラガーシャツを購入し、ラグビー観戦初心者の私もかなり楽しめた。

日本代表の活躍には感動続きで、日本が敗れた南アフリカの優勝はうれしかった。そして、南ア代表初の黒人主将コリシ選手の「様々な背景や人種の選手が集まり、一つの目標に向かって一丸となった」との言葉には共感を覚えた。日本代表のチームスローガン「ワンチーム」、私もその精神を職場で生かしたい。感動をありがとう！

読売新聞全国版
2019年11月13日付
新聞投稿104号

糖尿病看護認定看護師（CN）や日本糖尿病療養指導士（CDE-J）、群馬県糖尿病療養指導士（L-CDE）等の資格を取得している多職種協働のメリットを活かし、“ONE TEAM（ワンチーム）”をモットーに新たな患者会の在り方を模索しつつ、地域全体の糖尿病医療の質向上、患者生活の質向上につながればと考える。

【結語】

糖尿病と折り合いをつけながら歩んでいく中で、食事療法、運動療法、薬物療法は重要であるが、それ以前のこととして、正しい知識の習得が何よりも重要である。糖尿病は、様々な合併症を引き起こすがゆえ、学ぶことはたくさんある。患者の中には、学び甲斐があって、将来の健康のためにもつながると前向きに話される方もいる。そのような場を提供できるのが、“友の会”であると考える。

普段の短い診療時間の中でカバーできない内容を、本会を通して提供できる点は担当医師としてもありがたい場であり、協力いただく多職種スタッフのおかげでもある。糖尿病について継続的に学ぶ機会を患者に提供していくことは、医療者の重要な役目であり、今後も“友の会”の普及に努めていきたい。

患者の手紙励みに

医師　末丸大悟　36
（前橋市）

令和元年を迎えた日を職場の病院で過ごし、糖尿病の専門医を育てる「研修指導医」という資格を目指してレポート作成に励んでいた。レポートに記載した西暦を眺めていた時、ふと令和の西暦変換法を思いついた。「018」に令和の年数を足すと西暦になる。しかもそれが「令和」と読めてしまう偶然に驚いたのだった。

そんな幕開けの令和元年だったが、早々に窮地に立たされた。それは、糖尿病教育の一環として重要な糖尿病患者会が、諸事情により存続の危機に見舞われたのだった。ただ、「逆境はチャンス」と思い直し、よい方向へ舵（かじ）を切ることができた。まさに多職種による〝ワンチーム〟に生まれた助け合いの精神で救われたようなものだった。

患者さんからいただいた数々の温かいお手紙の中に、励みとなる短歌が便箋にしたためてあった。

「果てしなき糖尿病の旅なれど師の灯火にみちびかれゆく」

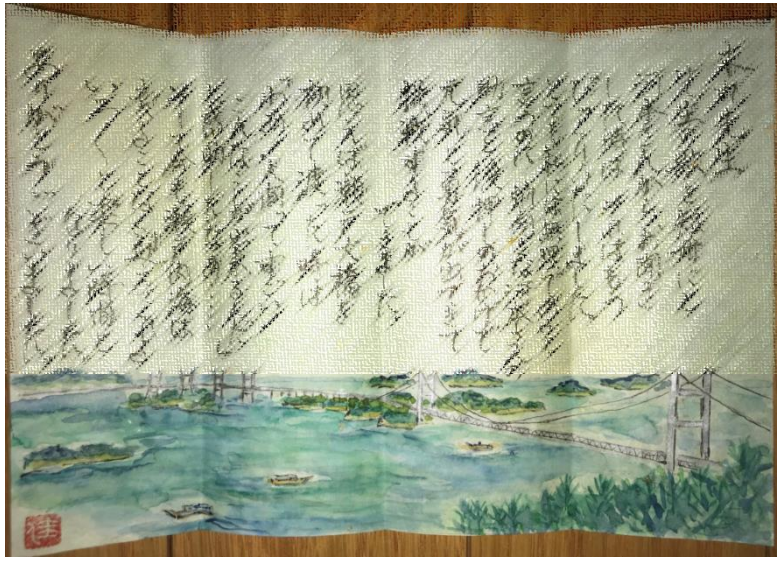
令和元年は忘れられない思い出の詰まった元年となった。

読売新聞群馬版
テーマ「今年の思い出」
2019年12月11日付
新聞投稿106号

果てしなき糖尿病の旅なれど
師の灯火にみちびかれゆく
（ペンネーム）

【励ましの数々】

医師室の机上
患者さん方からいただいた数々の励ましに感謝致します。
大 ←実はこちらの落款印もです



故郷・岡山に架かる瀬戸大橋が描かれた絵手紙

nesday ぐんま　ひろば

澄んだ空 写真に

医師　末丸大悟　37（前橋市）

宮本武蔵は私の故郷・岡山ゆかりの剣豪だ。その著書「五輪書」には、万里一空という四字熟語がある。「世界はどこまで行っても空は一つ」ということから、「一つの目標に向かって精進し続ける」という意味の格言だ。

群馬に住んで10年がたつ。澄んだ空気のもと、空に広がった芸術によく感動させられてきた。雲や風、太陽の光が織りなす自然の芸術は、まさに二つとなく、空をキャンバスとして広がる。私は「一瞬」という価値を空に見いだすのが好きで、空を眺めて写真におさめることを楽しみとする。

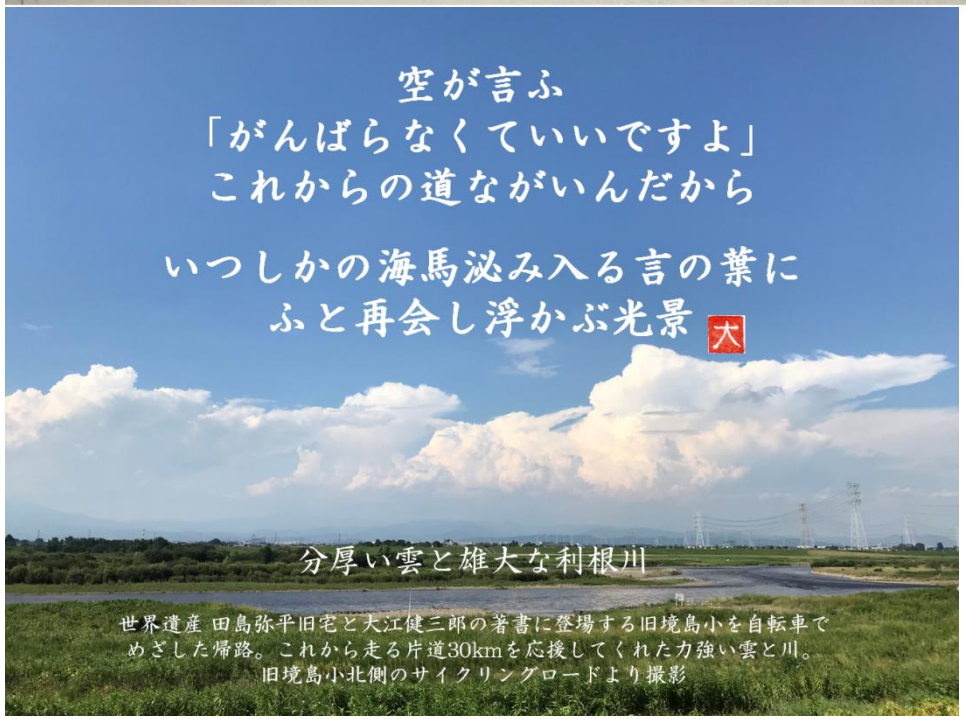
世界中で人類が新型コロナウイルスと闘おうとも、また人類間で紛争を繰り返そうとも、空は争わずただ一つだ。離れたところから見ても空は空。そう思うがゆえに、万里一空という格言を好んでいる。

夕暮れと雲海に浮かぶ赤城山（前橋市で撮影）

写真は、瞬間を捉えた押し花のようなもの。押し花絵を趣味とされる患者との関わりを通し、ひらめいて詠んだ。

今のままそう願いつつ押し花に　想い出つめるこの瞬間

読売新聞群馬版
2020年7月8日付
新聞投稿118号



患者さんからいただいた
押し花絵（トトロ）

医師の言葉 感動

河本貞子　91（前橋市）

「がんばらなくていいですよ」と静かにおっしゃった担当の先生の言葉が身にしみて残っています。

10年前、糖尿病と診断され「完治しない」「余病の併発」「食物の制限」などのダメージが頭をよぎり、心のバランスまで失いかけていました。自分でも抑えきれなくなった頃、ついに先生にまで愚痴や泣きごとを口走ったようなのです。先生には病気のためプレッシャーに押しつぶされていらだっている姿に映ったのでしょう。

「がんばらなくていい」と温かい言葉をかけてくださったのです。その言葉は弱い患者をいたわる優しさにあふれており、自分にも気付くことがありました。今まで背負っていたものが、急に取り除かれ、身内に風が吹き抜けたように感じました。

現代の医学の進歩は目覚ましく、その恩恵は計り知れません。一方、医療の現場では医師と患者の親身な交流が何にも増して患者の心を癒やし、さらに医療の力まで高めることがあると自分の実体験を通して考えています。

今では「がんばらなくていい」は、自分なりに考えて「自然体でがんばればいい」という励ましの言葉と受けとめています。自分でも自発的に動けることが多くなり、病気を友としながらも心に張りが出てきました。

温かく親身な医師の言葉がいかに患者の心を動かすか、その大きな力に深い畏敬の念を覚えます。これからの余生は先生のお言葉を生活の指針として穏やかに生きていきたいと思っています。

読売新聞群馬版
2020年7月8日付
（患者さんの御厚意で掲載）

糖尿病教育と患者会

末丸　大悟（前橋市・36）

「糖尿病学の父」と称されるエリオット・P・ジョスリンの言葉に「糖尿病患者教育は治療そのもの」とある。職場の病院では糖尿病の教育入院を実施し、医師のみでなく、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師、歯科衛生士、臨床心理士など多職種で関わる。

院内には30年以上前に発足した糖尿病の患者会が今なお存続し、定期的な勉強会で交流を深めている。「息子にも伝授したい予防策」「網膜症怖いが遠のく眼科受診」といった糖尿病川柳を詠んだり、体験談を語り合ったりすることもある。こうして、患者とその家族、医療スタッフとの間を近づける唯一の場が患者会に広がっている。「この会は気分転換になります」。参加者の喜びの声を耳にするとうれしい。

上毛新聞
2019年5月22日付
新聞投稿95号

初めて出逢った大悟橋
前橋・鎌倉中付近にて撮影
（2019年7月4日）

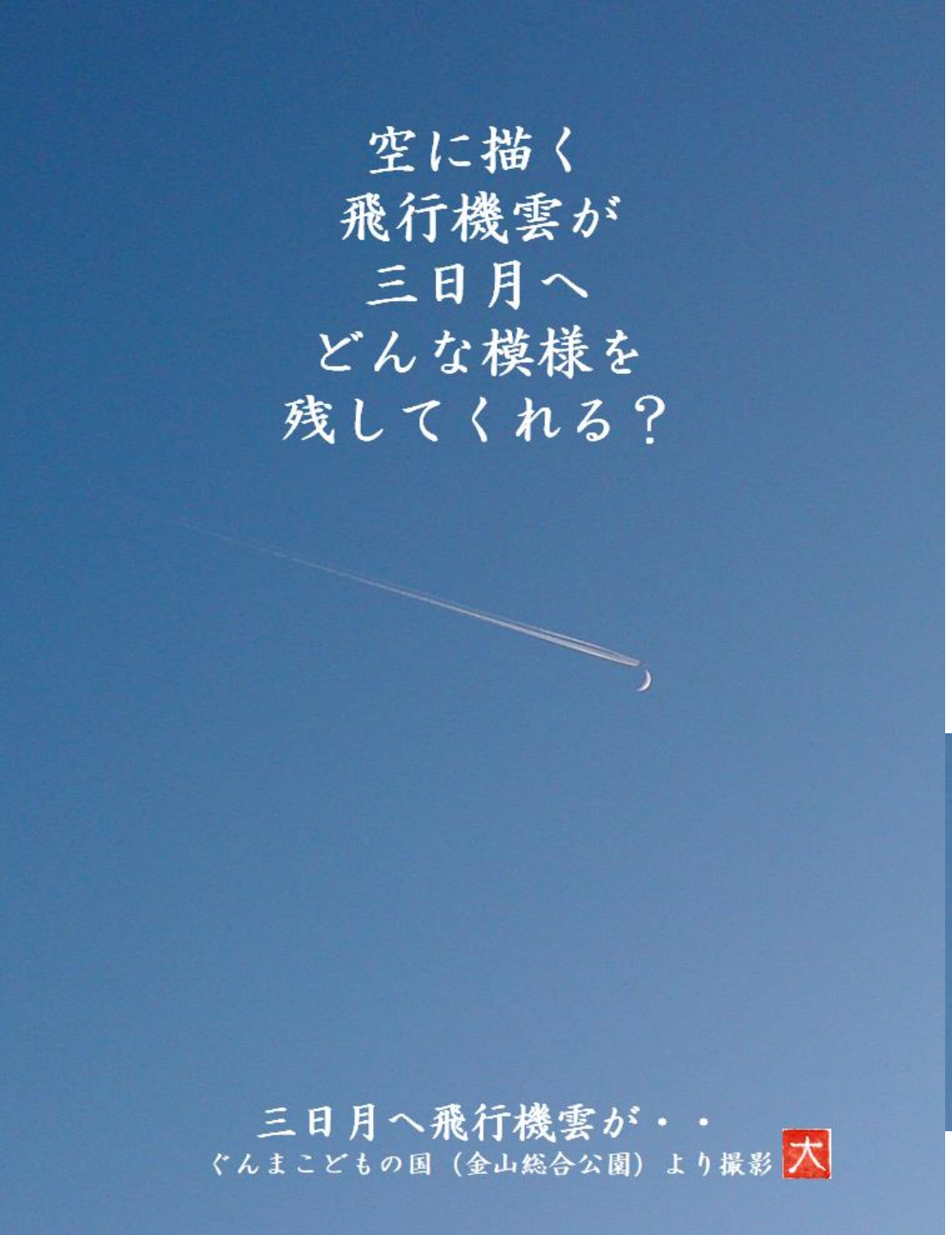
竜ノ口川を架ける橋。この地域は神奈川の鎌倉を彷彿とさせます。
この川の由来は、現在の江ノ島電鉄江ノ島駅付近の「龍口」とされます。
この日は、奇しくも存続危機にあった前橋日赤糖友会（患者会）を引き継ぎ、
立て直した門出の日でした。この橋に背中を押されたような気がしました。

先日、長く患者会を支えてくれた医療スタッフの退職に際し、患者から感謝の気持ちを込めて押し花絵が贈られた。トウモロコシやカキ、ナスの葉、アジサイ、テッセンなどの素材を使って、スタジオジブリの名作「となりのトトロ」がモチーフに描かれていた。患者の思わぬ特技も垣間見られる会でもある。今後も、このような温かい雰囲気の患者会を支えていきたい。

※本会の解散を提言する声が挙がる中、存続へ向けて親身に相談に乗っていただき今も尚お世話になっている看護部長の林昌子さん、運営面でお世話になった事務の飯田早苗さん、鈴木典浩さん、現在お世話になっている品川京子さん、病院ホームページでお世話になっている伊藤純子さん、患者図書室でお世話になっている塚越貴子さん、パイロットモデルとして協力いただいたすえまる内科のスタッフの皆様、温かく見守ってくださった会長の新井修さんを始めとした会員の皆様、レクチャーにご協力いただいている多職種の皆様、糖尿病診療の恩師であり本会を支えてくださった糖尿病・内分泌内科部長の上原豊先生、糖尿病看護認定看護師の髙木あけみさん、そして最後に、今回の存続危機を共に闘い、何から何まで相談に乗っていただいた本会前任担当の糖尿病看護認定看護師の齋藤久美さんに、この場をかりて感謝申し上げます。

2020年7月吉日　　末丸大悟　拝

前橋日赤糖友会のレクチャー風景＠病院多目的室
（2019年7月4日）



飛行機が空に描く飛行機雲は
三日月に対して
どんな模様を残すつもりだろうか？
どんな模様を残せるだろうか？

飛行機を“自分自身”に
飛行機雲を“軌跡”に
三日月を“友の会”に例えたい

飛行機雲の残す模様は
あらゆる視点から見れば
変わりうるであろうし
時間が経つことでも
変わりうるであろう

そんな千変万化な会も良いかと思いつつ
無理なく少しでも貢献できれば幸い
そう考える今日この頃である

2020年7月吉日
末丸大悟

「一瞬」という価値を【空】に見いだすことが好きで、
これまで切り取ってきた【空】の瞬間に短歌を添えて
写歌としてまとめた『空メン内科医のつれづれ写歌』より

離れても
空でつながる
友の会

新型コロナウイルス感染症の拡大回避のため、フィジカル・ディスタンシング（物理的距離の確保）を考慮して、
２０２０年３月より前橋日赤糖友会（友の会）の開催を控えて半年が経過しました。

空を見上げて「ブルーサークル*」を思い浮かべて、つながってほしいとの思いから川柳を1句詠みました。

２０２０年8月号 月刊糖尿病ライフ「さかえ」（日本糖尿病協会）掲載

＊「ブルーサークル」とは？
“ブルー”：どこまでも続く空、“サークル”：団結
青い空のように澄んだ気持ちを持って、明るい明日に向かって糖尿病と歩む、希望をつなぐという気持ちが込められています。

離れていても、寄り添う心を大切にしたいと思います。

末丸大悟